



# 東海中新聞

NO. 389

令和6年6月号



3年生は修学旅行、2年生は名古屋で班別学習、1年生はリトルワールドに出かけました。

**認め合う  
素敵な東海中へ**  
教務主任

東海中では、友達の活躍に対し、生徒が自然に拍手する場面が多く見られます。全校テレビ放送では、生徒会役員の話や表彰後に各教室から、自然と拍手が沸きます。拍手の対象がその場になくても、自然に拍手が沸く様子から仲間を認め称える温かさを感じます。

六月一日に本校で体育大会が開催されました。天候にも恵まれ、一〇〇m走、走高跳等の個人種目、玉入れや綱引き等の競技・演技、生徒会主催の応援合戦等で、東中生は大いに盛り上がりました。印象に残ったのは、学級対抗の綱引きの一場面でした。各学級では事前に、綱を引く角度、人の配置等、戦術を練り、本番前に行った全体練習でも熱心に取り組む姿が目立ちました。

本番では、さらに東中生の熱気は高まり、担任や縦割り学級の応援とともに、生徒は顔を真っ赤にし大声を出しながら真剣に綱を引いていました。勝負がついた瞬間、勝ったチームの喜びは大爆発。飛び上がり、ハイタッチをして喜んでいました。私の目を引いたのは、その後の場面です。勝敗の結果を告げ

られ、勝ったチームが喜ぶ姿を見て、負けたチームは悔しさをにじませながらも勝ったチームに向けて、大きな拍手を送っていたのです。勝負の相手を称える東中生を誇らしく思いました。

しかし、昨年度の学校診断アンケート（生徒用）の項目「自分には、よいところがあると思う」では、A「よくあてはまる」と回答した生徒は、三六%にとどまり、他の項目に比べ、低い数値でした。自然に拍手が沸く東中生と、この数値の低さのギャップに私は驚きました。なぜ、東中生の自己有用感が低いのかと。生徒同士の称賛では、東中生の自己有用感が高まらないのでしょうか。そうであれば、私たち大人の支援で、東中生の自己有用感を高めたいと思いました。生徒が進んで挨拶をする、ごみを拾うなど些細な行動であっても見かけたら、学校では教職員が、家庭では保護者の方が、学区では地域の方が「ありがとう」「がんばっているね」と、認める声掛けを積極的にするのです。

ある三年生の授業で、自然と各チームで拍手が沸いている教室がありました。一人の生徒に声を掛けると、「三年生は雰囲気いいんで！」と誇らしげに語りました。学校、家庭、地域が力を合わせ、このような自己有用感の高い東中生で溢れる、素敵な東海中でありたいです。

# 東海中 P T A だより

東海中 P T A 会  
広報委員  
第 2 2 4 号

## 専門委員会の活動だより

### 父母教師会会長

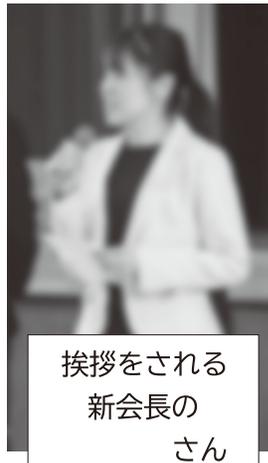
P T A は大変と思っている方はいまませんか。私も役員になる前は P T A は大変！と思っていました。昨年役員として活動し、活動目的や意義を知ると共に、先生方や保護者の方々との交流の機会も増え、子供たちの学校生活への理解も深まりました。子供たちの笑顔を見ることができ、とても充実した一年でした。

今年度は P T A 活動の可視化を進め



令和 6 年度 P T A 役員のみなさん

たいです。少しでも P T A の活動を知っていただき、ご理解・ご協力をお願いできれば幸いです。



挨拶をされる  
新会長の  
さん

### 安全指導委員長

体育大会の駐車場整理も、たくさんの方にお手伝い御協力くださいましてありがとうございます。

今年度は理事の仕事量見直しにより、交通立哨当番が各学区担当となりました。子供たちの学校生活や行事が安心安全に送れますのは、先生方、保護者の方々、地域の方々の御尽力、御協力のおかげだと実感しております。これからも子供たちの安心安全を守る活動に皆様の御協力をお願い致します。

一年間よろしくお願い致します。

### 生活環境委員長

生活環境委員会として、今年度最初の草刈り活動が五月十八日に行われました。たくさんの方にご参加いただいたおかげで、例年以上に広い範囲の草刈りをすることができました。また、少しでも学校行事が思い出に残るよう、安心・安全、そして笑顔溢れる環境を整えるための活動に取り組んで行きたいと思っております。学校の様々な行事や、資源回収などを通じて子供たちの笑顔とともに活動させていただきます。一年間よろしく申し上げます。

### 広報委員長

広報委員会では、東海中新聞の「P T A だより」のコーナーを担当します。

子供が中学生になると保護者が学校に行く機会もだんだんと減ってきます。

そこで、学校行事や部活動に取り組む子供たちの様子を保護者の思いとともにお伝えし、学校

生活をより知っていただく機会になればと考えております。一年間どうぞよろしく申し上げます。

## 草刈り活動

五月十八日、P T A 役員・理事、保護者ボランティアのみなさんと、校庭の草刈りを行っていただきました。暑い中、草を刈っていただき、広い校庭がきれいになりました。本当にありがとうございます。



# 体育大会観戦

## 「中学校生活のはじまり」

一年生保護者

六月一日、初夏にふさわしい快晴のもと、体育大会が行われました。

一年生は入学してから二ヶ月と、中学校生活が始まったばかりでの開催でしたが、この行事を通じて、先輩の競技に取り組む姿勢や、熱く応援する姿を見ることができて、良い経験になったのではないかと思います。

少し前までランドセルを背負っていた子が、クラスのために一生懸命走る様子を見て、大きな成長を感じ、とても印象に残る体育大会となりました。

まだまだ一年生の中学校生活は始まったばかり。たくさんさんの経験の中で成功と失敗を繰り返して、全員が更に輝ける日々を過ごせることを願っています。

最後にお忙しい中、準備にご尽力いただいた先生方、PTA役員、ボランティアの皆様へ感謝申し上げます。



## 「体育大会を終えて」

一年生 保護者

数日前に発生した台風一号。お天気が心配されましたが、当日は清々しい晴天の元、初めての体育大会が開催されました。

小学校の頃とは違い、どの競技も迫力があり、子供たちが全力で取り組む姿に成長を感じました。

応援する姿も素晴らしく、学年を超えて、出場選手への声援や拍手で健闘を称える姿に感動し、心温まる思いで楽しませていただきました。

委員会の生徒さんや先生方、PTAの役員の皆様方に感謝します。

## 「最高の笑顔」

二年生保護者

今年も天候に恵まれ、体育大会日和となりました。各競技は一年生から行われ、去年の我が子を思い出し、見て分かるほど緊張していましたが、今年は堂々と取り組み楽しむ姿に成長を感じました。

応援合戦では、声を出し合い一丸となって成し遂げる姿はとても印象に残っています。また、テント内で全力で応援している生徒が一喜一憂している姿にも自然と笑みがこぼれました。

生徒を含め、私達保護者にとって最高の思い出になりました。先生方、役員の皆様のご協力に感謝致します。



## 「青春のページ」

三年生保護者

晴天に恵まれ、三年生にとっては中学校生活最後の体育大会が始まりました。

個人競技、一〇〇m走や走り高跳びなどでは、三年生ともなると体格も大きく、力強い姿に子供達の成長と頼もしさを感じました。

綱引き、玉入れ、リレーなどの団体競技では、仲間と力を合わせて頑張る姿、仲間を応援する姿を見ることができました。

良い結果を残し喜ぶこと、また負けて悔しい思いをすること、どちらも全力を出したからこそ味わえる貴重な経験ができたと思います。保護者として、みんなの青春のページを見られて、とても充実した体育大会でした。ありがとうございます！



# 体育大会を終えて

## うまぴょい伝説

三年二組

私たち桜花爛漫連合は応援合戦で最優秀賞をとることができました。しかしそれまでの道のりは決して楽ではありませんでした。短い期間の中で振り付けを考え、みんなに教え、全体で踊りを合わせることは難しかったです。それは一人では決して達成できなかったと思います。実行委員の人達や先生方とみんなで協力したからこそ、最優秀賞をとることができたと思います。これからの行事や人生で今回の経験を生かしていきたいです。

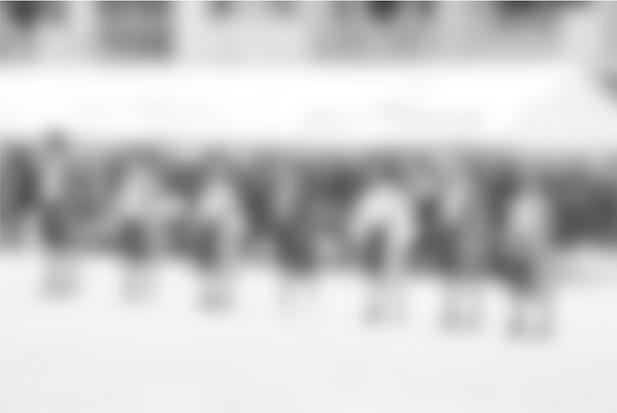


### ●応援の部

- 最優秀賞 A「桜花爛漫」連合  
3年2組、2年3組、1年3組、1年4組
- 優秀賞 B「一期一会」連合  
3年4組、2年1組、1年2組、1年5組

### ●学年別総合成績 (競技の部)

	1年生		2年生		3年生	
	優勝	2位	優勝	2位	優勝	2位
男子総合	5組	2組	1組	2組	1組	4組
女子総合	6組	1組	3組	2組	3組	4組
男女総合	1組	6組	3組	1組	1組	4組



# 修学旅行記

## 学んだ自分のこと

三年四組

ドイツニールランドでの学習中、僕は驚きを隠せませんでした。それは、キャストさんの笑顔がまったく絶えなかったことです。そのキャストさんを見て僕は、将来自分が楽しんでできる仕事が見たい、ということに気づきました。自分の好きなことで仕事ができれば、それが一番だと思ったからです。また、自分が将来どんな仕事をしているかは想像もつきませんが、今後の中学校生活、自分はどうなことが好きなのかを見つけていこうと思いました。



# やまなみ

教育随想

## 十人十色のつながり

養護教諭

毎週日曜日、中日新聞のサンデー版に掲載された迷路や間違い探しなどの問題を一緒に取り組む息子達。最近、その様子を見ながら、ふと感じたことがある。それは、わからない問題に出会ったときの反応の違いだ。「わからなくて悔しい」という気持ちを共感して欲しい息子と、一方で、「わからないなら知りたい」という好奇心から、自分で答えを探そうとする息子。同じように育てているつもりでも、感じ方や考え方が異なり、すでに個性が存在していることに気付かされた。

保健室に入室する子供たちとのやりとりは、実に多種多様である。全校生徒が四七二人いれば、四七二通りのかわり方がある。そこで私は、個々が感じる喜怒哀楽を受け止め、保健室に来たときより、柔らかくなった表情で、授業に向かおうとする子供たちに、「いつてらっしゃい。またね」と、声をかけて送り出す。そして、軽い足取りで廊下を歩く背中を見つめ、今日もこんな風に思うのだ。養護教諭として、その子のその時のその気持ちに寄り添い、ほんの少しだけ先の未来と一緒に考えるお手伝いができていたらいいな。